「挨拶―原爆の写真によせて」　授業プリント　1

挨拶―原爆の写真によせて

石垣りん

あ、
この焼けただれた顔は
一九四五年八月六日
その時広島にいた人
二五万の焼けただれのひとつ
すでに此の世にないもの

とはいえ
友よ
向き合った互（たがい）の顔を
も一度見直そう
戦火の跡もとどめぬ
すこやかな今日の顔
すがすがしい朝の顔を

その顔の中に明日の表情をさがすとき
私はりつぜんとするのだ

地球が原爆を数百個所持して
生と死のきわどい淵を歩くとき
なぜそんなにも安らかに
あなたは美しいのか

（2につづく）

起

写真

対比↓「すがすがしい朝の顔

↓記憶が薄れつつある

承

友とわたし（人類全て）

転

隠喩法

慄然＝恐れ、おののく

現在はおよそ二万個

生と死のきわどい状態にある

↓油断している

「挨拶―原爆の写真によせて」　授業プリント　2

（つづき）

しずかに耳を澄ませ
何かが近づいてきはしないか
見きわめなければならないものは目の前に
えり分けなければならないものは
手の中にある
午前八時一五分は　　原爆投下の時間
毎朝やってくる

一九四五年八月六日の朝
一瞬にして死んだ二五万人の人すべて
いま在る
あなたの如く　私の如く
やすらかに　美しく　油断していた。

正否、真偽
↓対句法

原爆の悲劇が再び起こるかもしれないという警告

悲劇が起こるとも思わず用心していない認識の甘さ。誰も自分が死ぬとは思わず、死んでいった。

句読点の使用↓強い言い切り

感想をまとめよう。
（心に残った言葉・表現・自分が学び、実行していこうと思うこと）